

令和7年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会(小学校 算数科)

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、11月11日に奥州市立真城小学校で行われた小学校 算数科の研修会について紹介します。

【部会テーマ】

算数・数学における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
—「関数の考え」の指導の充実を通して—

【授業の視点】

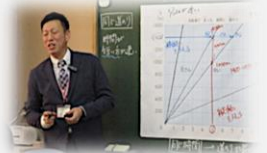
- (1) 数学的な見方・考え方が確かで豊かになる単元構想及び授業展開
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資するICTの活用
- (3) 関数の考えによる考察の充実

～ブラッシュアップメンバー～

授業者 奥州市立真城小学校
樋口 政 範 教諭
支援員 奥州市立岩谷堂小学校
中 屋 紗 恵 教諭
支援員 奥州市立胆沢中学校
中 館 一 穂 教諭

授業について

- 数学的な見方・考え方を働かせた姿や評価の計画を位置付けた単元計画をもとに、数学的な見方・考え方を働かせ、指導と評価の一体化の実現を図る授業を展開した。
- 黒板や大型TV(ロイロノート等)、アナログとデジタルを組み合わせながら、児童の思考や表現の一助となるようICT活用を図った。
- 比例のグラフによる問題解決をととして、グラフの読み取り方を見いだしながら数量の関係(速さ)を比較する活動を充実させた。



研究協議での話題から

- 児童が数学的な見方・考え方を働かせながらグラフを読み取る姿が見られた。
- ロイロノートを活用しながら授業を行っていたが、他者参照が可能となるよい面がある一方で、児童同士の行き来による交流が生まれにくい場面も見られた。さらに活用の場を検討していきたい。
- ロイロノートに振り返りを蓄積し、児童がいつでも振り返ることができるようにするとともに、他者参照により学びを深められるようにしている。
- 児童がグラフを読み取り、問題解決の根拠をわかりやすく説明する姿がすばしかった。



授業・研究協議から

県南教育事務所 佐藤 真 主任指導主事

- グラフの読み取り方(知識及び技能)を身に付ける1/2時間目と、グラフを活用して様々な問題の解決をととして、事象とグラフの関係について考える思考力、判断力、表現力等を育成する授業の2/2時間目の2時間のまとまりを見通した授業づくりを行っている。算数・数学の問題発見・解決の過程を2回りさせながら学びを深める授業づくりを行っている。
- グラフの傾きに注目することによって、数量の関係を比べられることを児童に見いださせる深い学びとなっていた。また、グラフで考察する数学のよさの実感にもつながっていた。中学校の学習への接続にも効果的であった。
- 「道のりや時間をそろえて比べる」既習の速さの比べ方の考え方を、「グラフの縦軸、横軸でそろえて比べる」ことにつなげるなど、数学的な見方・考え方を大切にした授業であった。
- ICTと紙媒体のどちらを用いて表現して考えるのか、児童に選択させるなど、児童に寄り添って深く思考させる授業であった。



【研修者の声(一部抜粋)】

授業改善に向けて

- ・ 知識及び技能を習得する場面の授業を参観することができて勉強になりました。
- ・ 授業者の思いが参観している研修者にも伝わってくる授業でした。また、研究協議で先生方から実践に向けてヒントをたくさん得ることができました。
- ・ 比例について自分自身が考えるとても楽しい時間となりました。自分自身が深い学びとは何かをしっかりと捉えて授業することが大切であると改めて思いました。
- ・ 単元やまとまりを見通した授業づくりの大切さを学ぶことができました。